

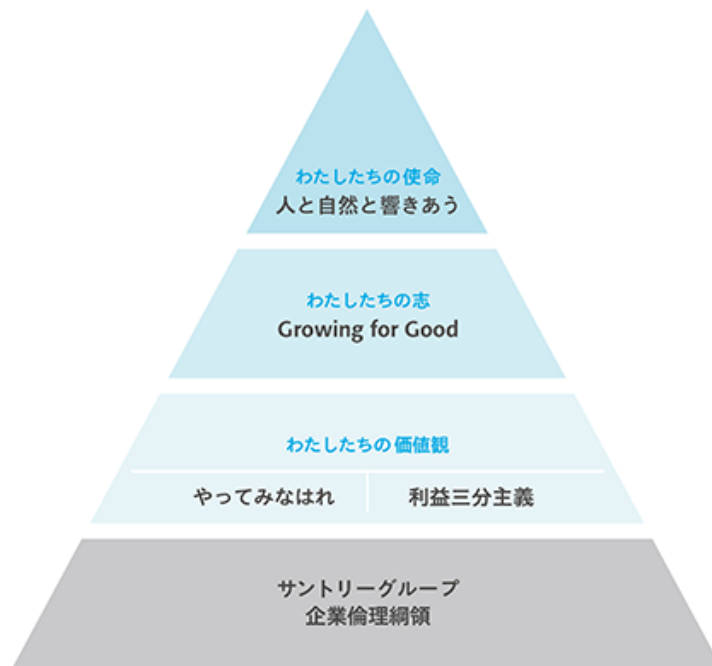
サントリーグループの CSR

CSR の考え方

社会、自然との共生を実現し、真に価値ある企業となるために、サントリーグループは企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」の実現に向け、ステークホルダーとともにさまざまなCSR活動を進めています。

サントリーグループの理念

「水と生きる SUNTORY」は、企業理念に基づく私たちの思いを広く社会と共有するための言葉です。地球にとって貴重な水を守り、水を育む環境を守るとともに、社会に潤いを与え続ける企業を目指し、新たな価値の創造に挑戦しています。



わたしたちの使命

『人と自然と響きあう』

わたしたちは常にお客様を見つめ、お客様の求めるものに応えます。商品やサービスを通じてお客様の生活文化を潤い豊かなものにしていきます。そして、商品の源泉である自然の恵みに感謝し、恵みを生み出す自然の生態系が健全に循環するように力を尽くします。人々の生活文化を潤い豊かにすることと、自然環境を保全することが互いに矛盾せず、幸福な相互関係で結ばれ、永く持続していく社会づくりに貢献すること。それがサントリーグループの使命です。

わたしたちの志

『Growing for Good』

わたしたちは、この社会のために“Growing”＝成長しつづけます。成長しつづけることで、よりよい社会づくりに貢献する力も、自然環境を守る力も大きくしていきます。そのためには革新的な取組みに情熱を注ぎ、新たなチャレンジをつづけなければなりません。挑戦の先にあるのは、いまよりもっと誠実で、信頼される企業。そんな“Good”な企業に向かって成長しつづけること。これがサントリーグループの志です。社員一人ひとりもまた、仕事への情熱と挑戦意欲を忘れず、“Good”＝誠実で信頼される人間として、成長しつづければなりません。

わたしたちの価値観

『やってみなはれ』

サントリーグループの歴史をつくってきたのは、常に果敢なチャレンジ精神でした。誰もやらなかったことに挑む。常識を疑い視点を変え、考えぬいて、ひたむきに行動する。失敗や反対を恐れず、ひたすら挑戦しつづける。新しい市場創造も、新たな価値提供も、そんな情熱から生まれました。『やってみなはれ』は、現在も未来も、わたしたちの事業の原動力となる価値観です。

『利益三分主義』

わたしたちの事業は、お得意先やお取引先、そしてこの社会のおかげで成り立っています。だから、事業で得た利益は、「事業への再投資」にとどまらず、「お得意先・お取引先へのサービス」や「社会への貢献」にも役立てていこう。そんな思いを言葉にしたのが『利益三分主義』です。「おかげさまで」の心で、事業の成功をステークホルダーや社会全体と分け合い、互いに発展・成長していける関係づくりに全力を注ぐこと。これもまた、サントリーグループ不変の価値観です。

サントリーグループ企業倫理綱領

企業理念の実現に向けて、私たちが行うすべての活動の基盤であり、サントリーグループが社会に対して責任を果たし、信頼をいただくために、大切にしなければならない基本姿勢を定めています。

コーポレートメッセージ

水と生きる SUNTORY

「水と生きる SUNTORY」は、企業理念に基づく私たちの思いを広く社会と共有するための言葉です。地球にとって貴重な水を守り、水を育む環境を守るとともに、社会に潤いを与え続ける企業を目指し、新たな価値の創造に挑戦しています。

サントリーグループのCSRの考え方

持続可能な社会に向けて、サントリーグループの理念を実践することそのものがサントリーグループのCSRであると位置づけ、グループ一体となって活動を推進しています。グループ理念に基づき従業員一人ひとりが社会やステークホルダーとのつながりの中でCSRを実践できるよう、CSRに関する基本的な考え方を以下のように定めています。

- サントリーグループの理念の実践を通じ、社会や自然と共生し、持続可能な社会の実現に貢献します。
- 社会課題の解決と新たな価値の創造に向け、ステークホルダーの期待や要請を踏まえたCSR活動を積極的に推進します。
- 人権尊重と高い倫理観に基づいて、公正・透明で誠実な事業活動をビジネスパートナーとともに遂行します。

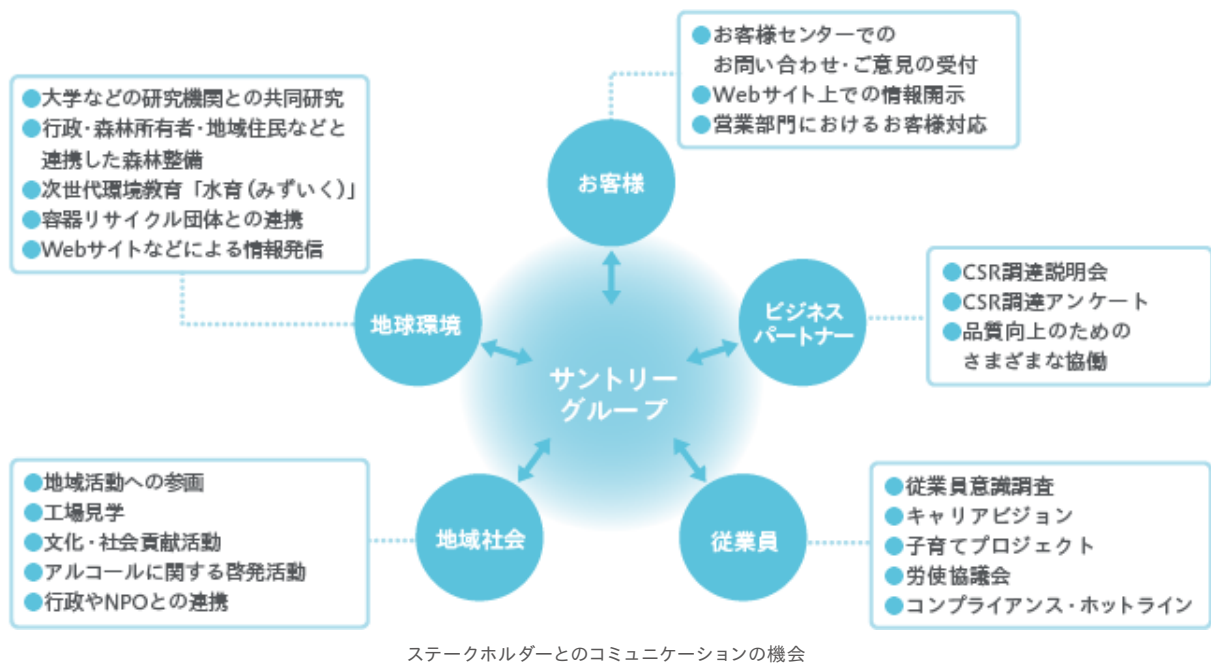
CSR推進体制

サントリーグループでは、取締役会および各委員会のもと、CSR関連部門が連携し、グループ全体でCSR活動を推進しています。その全社横断的機能を果たす専門部署として、2005年よりCSR推進部を設置しています。CSR推進部では、全社CSR戦略の策定、部門横断的なCSR課題への対応、CSR情報発信、ステークホルダーとのコミュニケーションなどに取り組んでいます。また、CSR関連部門と連携して行動計画を策定し、それぞれのCSR課題について定例会議を開催し、活動の進捗報告や課題の共有、課題の解決に向けた討議や社会動向の共有を行い、国内外含めたグループ全体でCSR活動を推進しています。



ステークホルダーとの関わり

サントリーグループの事業活動は、多様なステークホルダーとの関わりの中で進められています。持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるために、私たちはステークホルダーへの責任を明らかにするとともに、さまざまなコミュニケーションを実施。いただいたご意見や社会のニーズを企業活動に反映し、高い信頼関係や協働関係を継続的に築いていくことを目指しています。



CSR 4つの取り組み

CSRの考え方をベースに、よりサントリーグループらしい社会的責任を果たしていくため、2011年からISO26000を活用したCSR活動を推進しています。CSR活動の現状把握と課題抽出・認識の共有を行い、7つの中核主題ごとにステークホルダー・エンゲージメントを実施しました。この結果をもとに、グローバルな社会課題や事業課題の中から、ステークホルダーからの期待・関心度が高く、また、サントリーグループにとって重要度が特に高い課題を抽出した上で、企業理念「人と自然と響きあう」の実現に向けて、これらの課題の整理を行い、4つの取り組みにまとめました。今後も私たちサントリーグループは企業理念に基づく活動の実践を通じて、社会的な責任を果たすとともに、持続可能な社会の実現を図りながらグローバルに成長する、「Growing for Good」な企業を目指して革新と挑戦を続けてまいります。

■ (1) お客様・お取引先と響きあう／商品・サービス

最高品質の商品・サービスでお客様に感動をお届けするために

お客様の声を広く企業活動に反映させるとともに、サントリー品質方針「All for the Quality」のもと、バリューチェーン全体で品質の維持・向上に取り組んでいます。また、CSR調達やアルコール関連問題にも積極的に取り組んでいます。

■ (2) 自然と響きあう／環境

限りある水や資源を、次の世代に引き継ぐために

持続可能な豊かな地球環境を次世代に引き継ぐべく、「環境ビジョン2050」を定め、「自然環境の保全・再生」「環境負荷低減」の2つの軸で、グループ全体での環境経営を推進していきます。

■ (3) 社会と響きあう／文化・社会貢献

地域に根ざした活動で、明るい未来を築くために

創業の精神「利益三分主義」に基づき、「芸術・文化」「スポーツ」「社会福祉」の分野を中心に、「次世代育成」「被災地支援」「地域貢献」など、時代を見つめた文化・社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。

■ (4) 従業員と響きあう／ダイバーシティ経営

世界へと夢を広げる、多彩な人材を育てるために

「ダイバーシティ経営」を人事の基本方針とし、新たな価値創造に挑戦する「人材育成」と従業員一人ひとりが最大限に力を発揮する、創造性あふれる「職場環境づくり」を目指しています。

グローバル企業としての取り組み

■ 持続可能な開発目標(SDGs)*をふまえて

地球規模での環境問題、人口増加に伴う資源・エネルギー・食料の逼迫や格差の拡大など、私たちが直面している課題は非常に多岐にわたっています。世界が課題解決に向けた動きを見せる中、サントリーグループはグローバルに事業を展開する企業として世界課題の解決に貢献すべく、「持続可能な開発目標 (SDGs)」などの国際的な長期目標を参照し、取り組みを深化させていきます。

※ 2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに全世界が取り組むべき目標 (Sustainable Development Goals)

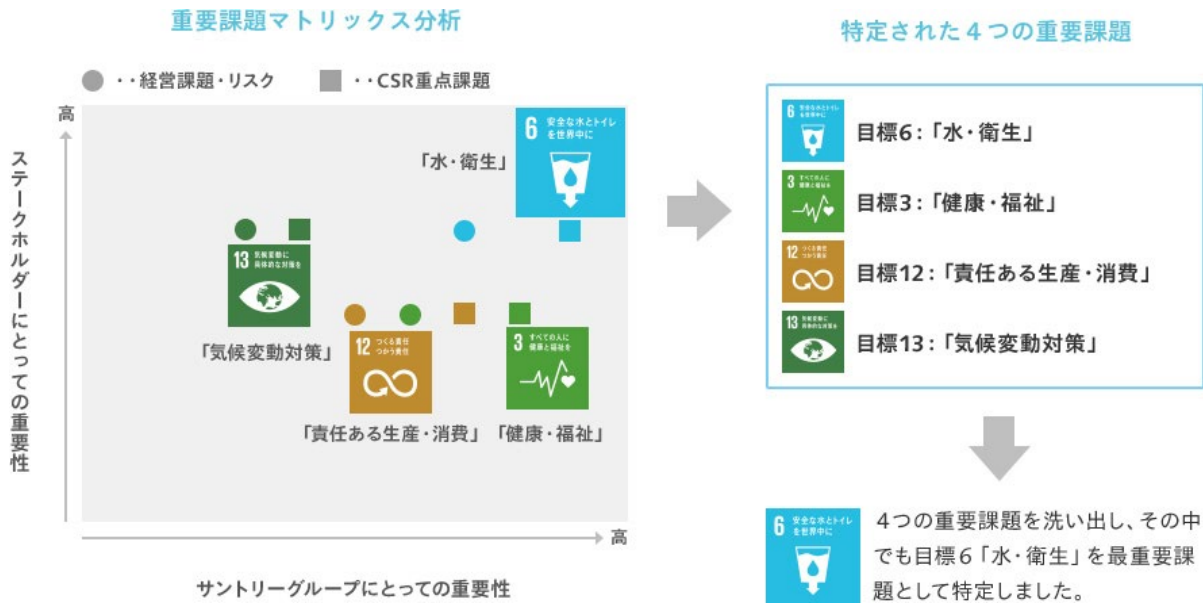


■重要課題の特定

サントリーグループは今後のCSR活動の重点領域を検討するため「持続可能な開発目標 (SDGs)」を活用し、専門知識を有するKPMG あずさサステナビリティ (株) の協力のもと、重要課題分析を実施しました。

ステークホルダーにとっての重要性和サントリーグループにとっての重要性を評価し、取り組みのマトリックスを作成。CSR重点課題や経営課題・リスクの視点で分析した結果、重要度の高い取り組み目標として、目標6「水・衛生」、目標3「健康・福祉」、目標12「責任ある生産・消費」、目標13「気候変動対策」の4つを特定しました。

また、その中でも特に、事業活動にとっても重要な原料「水」を守ることが最重要課題であると認識し、グループ一丸となって水を守る活動に注力していきます。



■グループ共通の「水理念」を制定

「水」はサントリーグループにとって最も重要な原料であり、かつ、貴重な共有資源です。「水と生きる」企業として国内で培ってきた「水のサステナビリティ」の考えや活動をグローバルに実践していくため、2017年1月にグループ共通の「水理念」を制定しました。この理念のもと、事業を展開する世界各地で水を育む自然環境の保全・再生活動にグループ一丸となって積極的に取り組んでいきます。

サントリーの『水理念』

2017年1月策定

水はグループにとってもっとも重要な原料であり、かつ、貴重な共有資源です。環境基本方針の最上位に掲げる「水のサステナビリティの実現」に向けて、次の理念をグループ全体で共有し、ステークホルダーの期待に応えていきます。

1.水循環を知る

使用する水の循環について科学的アプローチに従って流域を調べ、理解を深めます。

2.大切に使う

水の3R (Reduce/Reuse/Recycle) 活動を通じて節水に努め、浄化した水は自然に還し、環境インパクトを軽減します。

3.水源を守る

サステナブルな未来を実現していくため、ステークホルダーと協力しながら使用する水の水源保全に努めます。

4.地域社会と共に取組む

社会が豊かになるように、水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。

■重要課題に対するサントリーグループの活動方針

「水」を始めとしたこれらの重要課題については、バリューチェーン全体の視点で取り組むことを重視し、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の169のターゲットを参照しながら検討を進めています。それぞれの重要課題において、今後は下記のような活動を強化していきます。

重要課題	取り組みのキーワード	強化していく活動例
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用効率の改善、持続可能な採取、水不足の対処 ・汚染の減少、未処理の排水の削減、水質改善 ・森林等の水に関連する生態系の保護及び回復 	<ul style="list-style-type: none"> 生産拠点を中心とした「水の3R」 水源涵養活動「天然水の森」 次世代環境教育「水育」
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール有害摂取の抑止 ・健康リスクの早期警告及び緩和能力を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 適正飲酒の啓発 機能性飲料の改良・開発
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の持続可能な管理、効率的な利用促進 ・持続可能な開発、自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識づけ ・食品ロス減少 	<ul style="list-style-type: none"> CSR調達 「2R+B」戦略に基づくペット容器開発
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動対策の戦略・計画化 ・気候変動に関する教育・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物削減、再利用 バリューチェーンCO2排出量削減

国連グローバル・コンパクトに署名

サントリーグループは世界人権宣言や国連のビジネスと人権に関する指導原則など国際規範を支持するとともに、国連が提唱する「人権・労働・環境」についての普遍的な原則を提唱する「国連グローバル・コンパクト」（以下10原則）に署名しています。

- 1.企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
- 2.企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
- 3.企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
- 4.企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
- 5.企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
- 6.企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
- 7.企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
- 8.企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
- 9.企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである
- 10.企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである



Network Japan
WE SUPPORT

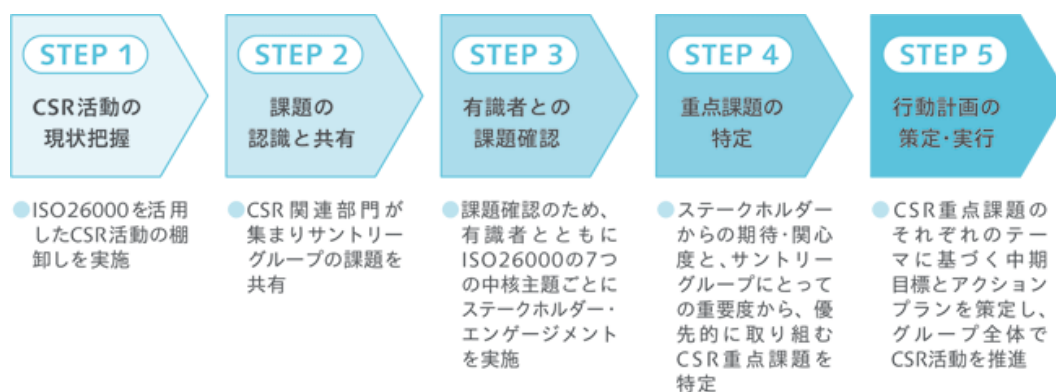
今後もグローバルでサステナブルな事業を推進していく上で、国際的な規範を遵守し、社会的責任を果たしていくことが、サントリーグループの使命であると考えています。

ISO26000を活用したCSR活動のステップアップ

CSRの考え方をベースに、よりサントリーグループらしい社会的責任を果たしていくため、2011年からISO26000を活用したCSR活動を推進しています。CSR活動の現状把握と課題抽出・認識の共有を行い、7つの中核主題ごとにステークホルダー・エンゲージメントを実施しました。

この結果をもとに、グローバルな社会課題や事業課題の中から、ステークホルダーからの期待・関心度が高く、また、サントリーグループにとっての重要度も高い項目を特に注力すべきCSR重点課題として2013年に特定し、策定した行動計画に基づいてグループ全体で活動を推進しています。

CSR活動推進のプロセス



CSR活動の現状把握

■CSR全体会議を開催

サントリーホールディングス（株）CSR推進部を中心に、CSR関連の主要部署※から代表者約40名が集まり、ISO26000についての理解を深めるとともに、今後のステークホルダー・エンゲージメントのプロセスを確認・共有しました。

※サントリーホールディングス（株）CSR推進部、品質戦略部、総務部、法務部、コンプライアンス室、人事部、エコ戦略部、サントリービジネスエキスパート（株）SCM本部、お客様リレーション本部



CSR全体会議の様子

■ISO26000のセルフチェックシートを用いてCSR活動の棚卸しを実施

ISO26000の中核主題ごとに設定されている「関連する期待および行動」の約250項目について、関連部署がセルフチェックシートを用いて対応状況を評価し、サントリーグループの課題を洗い出しました。



ISO26000のセルフチェックシート

サントリーグループの課題の認識と共有

■中核主題ごとに関連部署が集まり重要課題を議論

7つの中核主題ごと[※]に関連する部署が集まり、今後サントリーグループが優先的に取り組むべき重要課題を議論しました。

※ 人権と労働慣行については、相互に関連性が高いことから2つのテーマを同時に議論しています



人権・労働慣行をテーマにした議論の様子

有識者と重要課題を確認

■中核主題ごとに社外有識者と第1回意見交換会を開催

社内で議論した中核主題ごとの重要課題について、2012年3-4月に社外有識者と意見交換会を実施し、確認しました。継続的に意見交換会を実施していくことで、さらなるステップアップにつなげていきます。

重点課題の特定

ステークホルダーからの期待・関心度と、サントリーグループにとっての重要度から、優先的に取り組む6つのCSR重点課題を特定しました。

6つのCSR重点課題

- お客様第一に安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスの提供
- 「水のサステナビリティ」の追求と環境負荷低減による自然との共生の実現
- 「利益三分主義」に基づく生活文化の豊かな発展と次世代育成への貢献
- 「やってみなはれ」を発揮できる人材育成とダイバーシティ推進
- サプライチェーンを通じたCSR活動の推進
- 酒類を扱う企業として責任あるマーケティングと適正飲酒の普及と啓発

CSR行動計画の策定・実行

6つのCSR重点課題のそれぞれのテーマに基づく中期目標とアクションプランを策定し、グループ全体で活動を推進しています。

CSR 行動計画

お客様・お取引先と響きあう 商品・サービス

■お客様第一に安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスの提供

重点項目	中期目標	2016年度の実績	2017年度アクションプラン
お客様視点に基づく品質保証	お客様からのより一層の信頼向上	<ul style="list-style-type: none"> お客様の声から品質課題を抽出し、品質改善につなげた。 サプライチェーンを遡ったフードディフェンス活動を推進した。 フードバンク活動を継続した。 高品質な原料（ぶどう、その他）をサステナブルに調達できる仕組みを構築中。 食品安全を推進するGFSI活動に参画した。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の声をさらにスピーディーに解析して品質課題を抽出し、速やかに品質改善につなげていく。 フードバンク活動を継続する。 高品質な原料（ぶどう、その他）をサステナブルに調達できる仕組みを強化する。 海外のお客様にサントリーの品質関連情報を発信するしくみを構築する（グローバル品質広報）。 食品安全を推進するGFSI活動への参画を継続する。
	グループ全体の品質保証体制強化とシナジー発揮	<ul style="list-style-type: none"> サントリーグループ全社で Global MONOZUKURI Innovation (GMI) 活動を開始した。 GMIの中で「安全・安心の総点検活動」を開始した。 創業以来大切にしてきたものづくりの価値観・行動指針を Suntory MONOZUKURI Values (SMV) にまとめ、サントリーグループ共通の価値観として、グローバルに共有・展開していく活動を開始した。 グループ会社に品質方針・飲用時品質の重要性を浸透させていくための活動を行なった。（8社に対する鳥瞰考動講座） グループ品質マネジメントシステムを再整備し、品質マネジメント規定と品質スタンダードを制定し、グループ会社と共有した。 拡大品質会議を開催し、外食品質保証体制の強化を行なった。（外食グループ会社；プロント・まい泉） グローバルな法規情報・リスク情報を海外グループ会社と共有するコミュニケーションを開始した。 海外のグループ会社と共有したい品質関連情報をイントラネットに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「安全・安心の総点検活動」をグローバルに展開し、グループ全体で品質リスクを低減させていく。 海外のグループ会社で、Suntory MONOZUKURI Valus (SMV) への理解が深まるようダイレクト・コミュニケーションを行なう。 海外のグループ会社で、「SMVに基づいた活動」の展開を推進する。 海外のグループ会社に、グループ品質マネジメントシステムと品質スタンダードに則った活動を展開する。 特に「水の品質スタンダード」の考え方を浸透させ、「水を大切にする」サントリーの品質マネジメントを海外グループ会社に展開する。 グローバルな法規情報・リスク情報を海外グループ会社とタイムリーに共有し、早期対応できるしくみを強化していく。

<p>お客様とのコミュニケーション</p>	<p>お客様の声をこれまで以上に広く深く聞くことによるお客様との関係性の深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部診断によるコールセンター対応品質評価の実施（飲料・食品業界 食品1位、酒類1位）と改善活動PDCA強化 対応スタッフの対応スキル向上のためのトレーニング、商品知識の勉強会、工場見学会の実施 アクティブサポート(SNSを活用したお客様サポート)の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> お客様センターの対応品質向上に向けた継続的活動強化 外部診断等の客観的な対応品質評価とその結果によるPDCA活動の推進 対応スタッフのクレドマインドの浸透、トレーニング、勉強会の実施 お客様対応用の基盤システム刷新 お客様センター HPを通じた情報提供の拡充 デジタル進化に伴うお客様との新たなコミュニケーション方法の開発推進
<p>お客様の声を企業活動へ反映</p>	<p>お客様の声を商品・サービスに活かすしくみの拡充と国内外全グループへの浸透</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商品化各プロセスにおけるお客様視点での事前評価活動の実施 お客様の声を経営や商品化へ活かすVOC活動の拡充（商品開発関連部門との定期的なVOC会議の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> VOC活動をバリューチェーン全体により広く反映 お客様の声を活かした商品・サービスの改善 事前評価活動の強化徹底、ナレッジ化の強化

■酒類を扱う企業として責任あるマーケティングと適正飲酒の普及と啓発

重点項目	中期目標	2016年度の実績	2017年度アクションプラン
<p>適正飲酒の普及・啓発</p>	<p>消費者に対する適正飲酒の普及・啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> イッキ飲み防止キャンペーンやSTOP!未成年飲酒キャンペーン等の実施 モデレーション広告の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 未成年者飲酒の防止やイッキ飲み防止の啓発活動を継続強化
<p>積極的な働きかけによる酒類業界全体の取り組み向上</p>	<p>業界をリードしてWHOのアルコール世界戦略に対する業界コミットメントを実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> テレビ広告におけるタレント年齢の引き上げと飲酒表現に関する業界自主基準の改定 エナジードリンクのプロモーションを行わないことを継続 	<ul style="list-style-type: none"> 業界コミットメントの実行継続 デジタルメディアへの対応

■サプライチェーンを通じたCSR活動の推進

重点項目	中期目標	2016年度の実績	2017年度アクションプラン
<p>原材料調達・物流におけるCSR活動の推進</p>	<p>サプライチェーンにおけるCSR調達の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> お取引先とCSR調達方針を共有した上で、アンケートを継続実施 海外グループ会社とCSR調達方針を共有（グローバル調達会議の実施） ウーロン茶の原料調達先に対して人権課題のヒアリングを実施 	<ul style="list-style-type: none"> CSR調達アンケートの継続実施 環境アンケートの新規実施 海外グループ会社の活動内容のヒアリング 原料調達先に対する人権課題のヒアリング継続実施
	<p>物流における安全性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物流協力会社と連携した「安全推進委員会」を通じた安全性推進のしくみ強化 	<ul style="list-style-type: none"> 物流における安全性推進の継続・強化

重点項目	中期目標	2016年度の実績	2017年度アクションプラン
自然環境の 保全・再生	<p>生物多様性の象徴である野鳥の保護活動をグローバルに展開 国内すべての「天然水の森」においてワシ・タカ類の営巣・子育てを実現 海外における野鳥保護活動の支援 「天然水の森」の面積を、国内の自社工場で使用する地下水量を育む面積の2倍に拡大(12,000ha)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「天然水の森」13カ所で鳥類調査を実施し、植生調査等も勘案した森林ごとの課題を元に生物多様性の拡大を目指した森林整備に繋げている。 ・「サントリー世界愛鳥基金」においては、助成を通じた日本国内外の野鳥保護活動への支援に加え、2015年新設の「水辺の大型鳥類保護」部門での第2回助成を3団体に実施。 ・「愛鳥活動」サイトの更新による情報発信の拡充。 ・「天然水の森」ごとの中長期ビジョンに基づいた各種施業や追加的な実験的施業を実施実施。具体的には、間伐と搬出・作業道及び歩道開設・植生保護柵設置・土壌流失防止工・植樹等を各地で実施。 ・10月に「天然水の森 天王山」を新設したほか、「東京大学秩父演習林」「とうきょう秋川」「ぎふ東白川」「おおさか島本」「奥大山」等で既存の「天然水の森」も拡大。 ・「水育(みずいく)」活動内容の充実、水や水を育む自然の大切さの啓発と価値の発信を強化 ・参加者数「森と水の学校」1,331名、「出張授業」16,125名、延べ参加者約127千人 ・ベトナムの小学校での「水育」を実施、参加者数「出張授業」3,300名、工場見学および屋外活動含む延べ参加者約14千人 ・従業員森林整備体験研修の実施 参加人数2,964名(3年間計6,463名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系ピラミッドの頂点である「猛禽類」を中心に「天然水の森」での鳥類調査を引き続き実施しつつ、餌動物の繁殖環境の整備や狩猟・営巣環境に配慮した総合的な森林整備を推進していく。「サントリー世界愛鳥基金」については、各種団体への助成を通じた日本国内外の野鳥保護活動への支援も継続的に進めていく。 ・「天然水の森」では引き続き、中長期ビジョンに基づき、間伐と搬出・作業道及び歩道開設・植生保護柵設置・土壌流失防止工・地域性苗木の育成と植樹等のさまざまな施業を実施し、林業技術者育成研修も各地で実施していく。また、併せて「育林材^{※1}」の活用を推進し、「天然水の森」の協定面積拡大も進めていく。 ・「水育」活動内容充実、水や水を育む自然の大切さの啓蒙と価値の発信強化 ・「水育」参加人数計画(「森と水の学校」2,000名、「出張授業」15,800名) ・ベトナムの小学校での「水育」拡大。 参加人数計画2,400名
	水の大切さの啓発と価値の共有		
環境負荷低減	サントリーグループ ^{※2} の自社工場での水使用を35%削減 ^{※3}	自社工場での水使用のさらなる削減(原単位:07年比29%削減)	製造設備・容器の洗浄や冷却に使用する水の削減
	サントリーグループ ^{※2} バリューチェーン全体のCO2排出を24%削減 ^{※3}	バリューチェーン全体でのCO2排出量のさらなる削減(原単位:07年比24%削減)	容器の軽量化、再生資源の活用、工場の省エネ、国内最小電力量の自動販売機の積極導入など

※1 健全な森を育てるための整備で出てくる木材のことをサントリーでは「育林材」と呼んでいる

※2 サントリーグループ売上高(2012年)の80%以上を占める事業会社群(海外を含む)

※3 2007年における事業領域を前提とした原単位での削減

社会と響きあう 文化・社会貢献

重点項目	中期目標	2015年度の実績	2016年度アクションプラン
東日本大震災の復興支援	自治体・NPOなどと連携した復興支援活動強化	<ul style="list-style-type: none"> 支援活動の継続 「チャレンジド・スポーツ」支援プログラムの振り返り実施と内容拡充 車いすバスケットへの支援開始 水産高校生への奨学金2年延長（2017年まで）。延べ約3,000名に支援を実施 学童保育施設建設支援 3棟 	<ul style="list-style-type: none"> 支援活動の継続 「チャレンジド・スポーツ」支援プログラムの内容拡充 車いすバスケットへの支援継続 水産高校生への奨学金2年延長（2017年まで） 学童支援プログラムの実施
社会貢献活動のグローバル展開	事業進出エリアにおける社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムでの次世代環境教育の開始 6つの小学校で約1,600名を対象に実施 他エリアでの社会貢献活動の展開検討 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムでの次世代環境教育の拡充 他エリアでの社会貢献活動の展開開始（エスプラネード等）
次世代育成支援	文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援強化（2015年参加者目標100,000名）	<ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援プログラムへの参加者拡大（参加者100,000名） 	<ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援プログラムへの参加者維持・拡大（参加者目標100,000名）

従業員と響きあう ダイバーシティ経営

重点項目	中期目標	2016年度の実績	2017年度アクションプラン
人権の尊重	人権尊重を第一とする組織風土の醸成とグループ全体での人権マネジメントのしくみ構築	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会（テーマ：人口変動・人工知能と企業経営～人権の視点を踏まえて～）を6月に実施。SWHから大阪、京橋をWEB中継 上記講演会の収録DVDにて、全国営業拠点（16拠点）にてセミナーを実施した 新任マネジャー・新入社員などの階層別人権研修を継続実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年実施の人権講演会展開セミナーを全国生産拠点・R&D（22拠点）にて実施する 新任マネジャー・新入社員などの階層別人権研修を継続実施する
人材育成	人材育成システムのしくみ強化と従業員の「やってみなはれ」の促進	<ul style="list-style-type: none"> 「企業理念」特に「創業の精神」の理解から考動に繋げる取組みを加速 第1回「有言実行やってみなはれ大賞」の選考・表彰を実施。4月からスタートした第2回には、全世界から、517チームがエントリー 	<ul style="list-style-type: none"> サントリー大学下のインフラ整備により、創業の精神に関する情報をより簡単にアクセスしやすい環境を作る 第2回「有言実行やってみなはれ大賞」の選考・表彰を実施。4月から第3回をスタート
ダイバーシティの推進	多様な価値観や発想を受け入れ、活かすことにより、より大きな価値を創出するダイバーシティ経営の実現	<ul style="list-style-type: none"> 2015年活動を継続実施。各回とも高い満足度を達成。長期視点でのキャリア拡大、職域の創造を実現。TOO活動の支援も実施。キャリアワークショップ：303名参加 ライフプランセミナー：260名参加 2016年はさらに4名が入社し、合計8名体制に。SWH業務にとどまらず、赤坂へのエリア拡大、PCインプット業務などの職域拡大を実現 営業部門においては、社外活動であるエイジョカレッジで、食品・酒類の業界を巻き込んだ取り組みを提言。生産研究部門では、技術系女性社員とその上司に対するマインドセット、マネジメント見直しの機会を提供した 	<ul style="list-style-type: none"> さらなるシニア層の活躍に向けて、ライフサイクル相談室や、キャリアサポート室との連携で、現場の声に寄り添いながら、現状把握・課題整理を実施する 毎年定期的な採用を計画しており、業務エリアや職域拡大を実行する。またグループ会社へのノウハウ提供で、グループでの雇用促進を計画 営業、生産研究部門へのアプローチ継続と、製造部門への両立支援ならびに活躍支援の活動を広げていく。マネジャー層のパイプライン確立、ストレッチ機会の提供を継続実施する
ワークライフバランスの推進	働き方の革新と一人ひとりが能力を発揮できる職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 経営陣が旗振り役となり、部署毎に具体的なアクションプランを立案・推進。所定外労働時間で約1割減、年休取得日数約3日増を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 部署毎に、働き方改革推進リーダー・マネジャーを選任し、労使と三位一体で取り組みを推進していく

CSR の考え方

CSR 情報の掲載方針

サントリーグループは冊子やWEBなどを通じて、さまざまな形でCSRの取り組みをお伝えしています。

サントリーグループCSRコミュニケーションブック2017

本冊子は、サントリーグループが企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」の実現に向けて重点的に取り組んでいる活動やサントリーらしい取組みに焦点をあて、わかりやすく、編集しています。

SUNTORY
サントリーグループCSRコミュニケーションブック 2017



■対象範囲

対象組織

サントリーホールディングス(株)を含む国内・海外グループ会社321社

- ・環境データは、サントリーグループ売上高の9割を占める事業会社群が所有する国内生産25工場、海外生産54工場(P.31)
- ・人事データは、サントリーホールディングス(株)、サントリー食品インターナショナル(株)と雇用契約を結ぶ社員を対象(P.37-40)

対象期間

データは2016年1月1日～2016年12月31日の実績です。活動については、直近のものも含めます。

参考にしたガイドライン

- ・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4)
- ・ISO26000(社会的責任に対する手引)

■発行

2017年6月(次回は2018年6月発行予定)

サントリーグループCSRサイト2017

本冊子よりも詳細な情報を網羅的に掲載しています。CSR関連データ集やグループ会社独自の取組み、社会との対話などの情報も充実していますので、目的に応じてご覧ください。

また、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4)の「中核」に準拠して報告しています。

